

IV 新しい学校配置案

IV 新しい学校配置案

前章の「より良い学習環境づくりのために」の考え方を基に、様々な配慮をしながら、本市教育の基盤となる学校配置とするため、再編を進めます。

1 学校再編の優先順位

「基本方針」に基づき、より良い学習環境の整備の観点から、以下の考え方で再編を進めます。

- (1) 複式学級・各学年1学級の解消（第1期）
- (2) 望ましい学校教育環境の整備（第1～2期）
- (3) 小・中学校のグループ化の推進（第1～4期）

第1～2期では、複式学級、クラス替えのできない状態の解消を最優先とし、さらに学校教育環境の早急な整備が特に必要な学校から取り組み、順次、小・中学校のグループ化を進めます。

第3期以降は、次ページの表にない学校を含め、学校規模の確保とともにグループ化を更に推進します。

2 全体の再編スケジュール

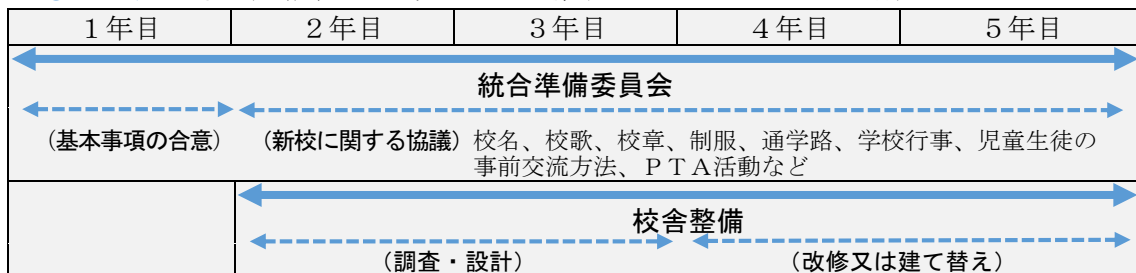
再編に着手する時期は、次ページの表のとおりです。表にある期間中に「(仮称)統合準備委員会」を設置するなど、再編に向けて準備を始めます。(38ページ参照)

着手から再編の完了までは、5年程度を目安として進めます。

【全体の再編スケジュール】

エリア (配置案)	校種	本計画中的 再編対象校	第1期 (2021~2025)	第2期 (2026~2030)	再編後の 学校の位置
			○複式学級・各学年1学級の解消 ○望ましい学校教育環境の整備		
十王・豊浦 (24ページ)	小学校	山部小 櫛形小	●-----▶	(※)	現 櫛形小の位置
	中学校				
日高・田 尻・滑川 (26ページ)	小学校				
	中学校				
本庁 (28ページ)	小学校	宮田小 仲町小 中小路小	●-----▶		現 宮田小の位置
	中学校	平沢中 駒王中	●-----▶		現 駒王中の位置
多賀北 (30ページ)	小学校				
	中学校				
多賀南 (32ページ)	小学校	河原子小	●-----▶		現 河原子小の位置
		大沼小 水木小	●-----▶		現 水木小の位置
	中学校	河原子中 泉丘中		●-----▶	現 大沼小の位置
南部 (34ページ)	小学校	久慈小	●-----▶		現 久慈小の位置
		東小 沢小 坂本小	●-----▶		現 坂本小の位置
	中学校	久慈中 坂本中	●-----▶		現 久慈中の位置
中里 (36ページ)	小学校	中里小	●-----▶		現 中里中の位置
	中学校	中里中			

※ ●-----▶ 凡例 (再編着手から完了までの標準的なスケジュールと内容)



3 配置案

(1) 十王・豊浦エリア（山部小、櫛形小、豊浦小／十王中、豊浦中）

ア 小・中学校の現状

(ア) 小学校

(児童数及び学級数の実績（5/1）と推計) ()の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
山部小	27人（3）	14人（3）
櫛形小	822人（26）	424人（14）
豊浦小	488人（16）	252人（12）
児童数計	1,337人	690人

- ・山部小の複式学級の解消は見込めない。
- ・櫛形小は現在、児童数が市内最多であるが、学区内の大規模団地分譲がピークを過ぎ、児童数は減少傾向に転じている。

(イ) 中学校

(生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計) ()の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
十王中	457人（15）	236人（6）
豊浦中	236人（7）	122人（6）
生徒数計	693人	358人

- ・豊浦中は豊浦小の児童数減少に伴う中学校の小規模化で教員配置などに課題が見られ、今後、学習活動や部活動への影響が懸念される。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・複式学級の解消に優先的に取り組む。
- ・ただし、櫛形小学区南端に位置する大規模団地に児童の居住が偏っており、通学区域の見直しを行っても山部小の複式学級の解消は見込めない。
- ・山部小と櫛形小を統合し、統合校の位置は櫛形小とすることが望ましい。

(イ) 中学校

- ・十王中と豊浦中の通学区域の見直しを行っても、両校とも目指す学校規模の確保が見込めない(※)ため、将来的には、十王中と豊浦中の統合が望ましい。
 ※ 現行の40人学級で各学年3学級以上を維持するためには81人以上が必要で、各学年で3学級以上となるための生徒数の目安が243人（81人×3学年＝243人）。両校が目指す学校規模を確保するには、486人（243人×2校）以上が必要。
- ・両校ともエリアの端に位置しているため、統合校の位置は、通学距離、円滑な小中一貫教育の進め方などを勘案しながら、慎重な検討が必要である。

ウ 再編スケジュール

校種	学校名	第1期 (2021～2025)	第2期 (2026～2030)	第3期～ (2031～)
小学校	山部小	●-----▶ (※)		
	櫛形小			
	豊浦小			
中学校	十王中	統合校の位置を検討		●-----▶
	豊浦中			

※ ●-----▶ 凡例 (23 ページ参照)

エ 第2期終了後の配置案



(2) 日高・田尻・滑川エリア（日高小、田尻小、滑川小／日高中、滑川中）

ア 小・中学校の現状

(ア) 小学校

(児童数及び学級数の実績 (5/1) と推計) () の数字は学級数

学校名	令和2年(2020年)の実績	令和22年(2040年)の推計
日高小	483人(15)	249人(12)
田尻小	445人(14)	230人(8)
滑川小	336人(12)	174人(6)
児童数計	1,264人	653人

- ・滑川小は宮田小から、田尻小は日高小から分離し開校した経緯がある。
- ・田尻小は学区内の公営住宅入居者の高齢化などから、ピーク時の約36%まで児童数が減少。
- ・滑川小も学区内に公営住宅や大規模団地があるが、同様にピーク時の約31%まで児童数が減少。

(イ) 中学校

(生徒数及び学級数の実績 (5/1) と推計) () の数字は学級数

学校名	令和2年(2020年)の実績	令和22年(2040年)の推計
日高中	345人(11)	178人(6)
滑川中	331人(10)	171人(6)
生徒数計	676人	349人

- ・滑川中は、日高中及び駒王中から分離し開校した経緯がある。
- ・滑川中の敷地の一部は津波浸水想定区域に含まれる。
- ・将来的には、両校ともに目指す学校規模を確保することは難しい見込み。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・将来的には、通学区域の見直しを行っても、3校がそれぞれ目指す学校規模を維持することは難しく、目指す学校規模の確保のため、2校に再編することが望ましい。
- ・通学距離、エリア内の配置バランスなどを考慮し、田尻小を日高小、滑川小とそれぞれ統合し、統合校の位置は日高小、滑川小とすることが望ましい。
- ・統合の時期は、中学校の生徒数の推移を見ながら検討するものとし、おおむね第3期以降とする。

(イ) 中学校

- ・将来的には、日高中と滑川中の通学区域の見直しを行っても、両校が目指す学校規模の確保が難しくなる見込みのため、統合して学校規模を確保するとともに、分散進学を解消することが望ましい。

- ・両校はエリアの端に位置しているので、通学距離、円滑な小中一貫教育の進め方などを考慮して、統合校の位置は、エリアの中心部である田尻小の校地を活用することが望ましい。
- ・両校の生徒数の推移を見ながら、統合の時期を検討する。

ウ 再編スケジュール

校種	学校名	第1期 (2021～2025)	第2期 (2026～2030)	第3期～ (2031～)
小学校	日高小			① → (※)
	田尻小			① →
	滑川小			① →
中学校	日高中	経過観察	→	② →
	滑川中	経過観察		

※ ● → 凡例 (23 ページ参照)

上表の①～②は再編の順番を示し、以下の順で進める。

①田尻小の分割、小学校の統合 → ②中学校の統合と移転 (田尻小跡)

エ 第2期終了後の配置案



(3) 本庁エリア（宮田小、仲町小、中小路小、助川小、会瀬小／駒王中、平沢中、助川中）

ア 小・中学校の現状

(ア) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
宮田小	352人（12）	182人（6）
仲町小	114人（6）	59人（6）
中小路小	116人（6）	60人（6）
助川小	356人（12）	184人（6）
会瀬小	283人（10）	146人（6）
児童数計	1,221人	631人

- ・会瀬小及び中小路小は、助川小から分離し開校した経緯がある。
- ・本市の中心市街地で人口が多く、狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていたが、近年は少子化の影響により各校とも小規模化。
- ・総じて、小規模校が多く、仲町小や中小路小は全学年が各1学級、本計画期間中には、会瀬小も複数の学年で各1学級となる見込み。

(イ) 中学校

（生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
駒王中	297人（10）	153人（6）
平沢中	75人（4）	39人（3）
助川中	312人（10）	161人（6）
生徒数計	684人	353人

- ・駒王中は、平沢中から分離し開校した経緯がある。
- ・本市の中心市街地で人口が多く、狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていたが、近年は少子化の影響により各校とも小規模化。
- ・平沢中は仮設校舎を使用しているため、早期の改善が必要。また、生徒数の減少により、教員配置や部活動数に課題がある。
- ・駒王中は敷地が狭隘。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・互いに距離が近く、それぞれに児童数が少ないため、学区の見直しを行っても将来、目指す学校規模を確保することは難しい。
- ・通学距離やエリア内の配置バランスなどを勘案しながら、2～3校に再編することが望ましく、仲町小、中小路小及び宮田小の3校を統合し、統合校の位置は宮田小とすることが望ましい。
- ・また、会瀬小は、児童数の推移を見ながら、助川小との統合を検討する。

(1) 中学校

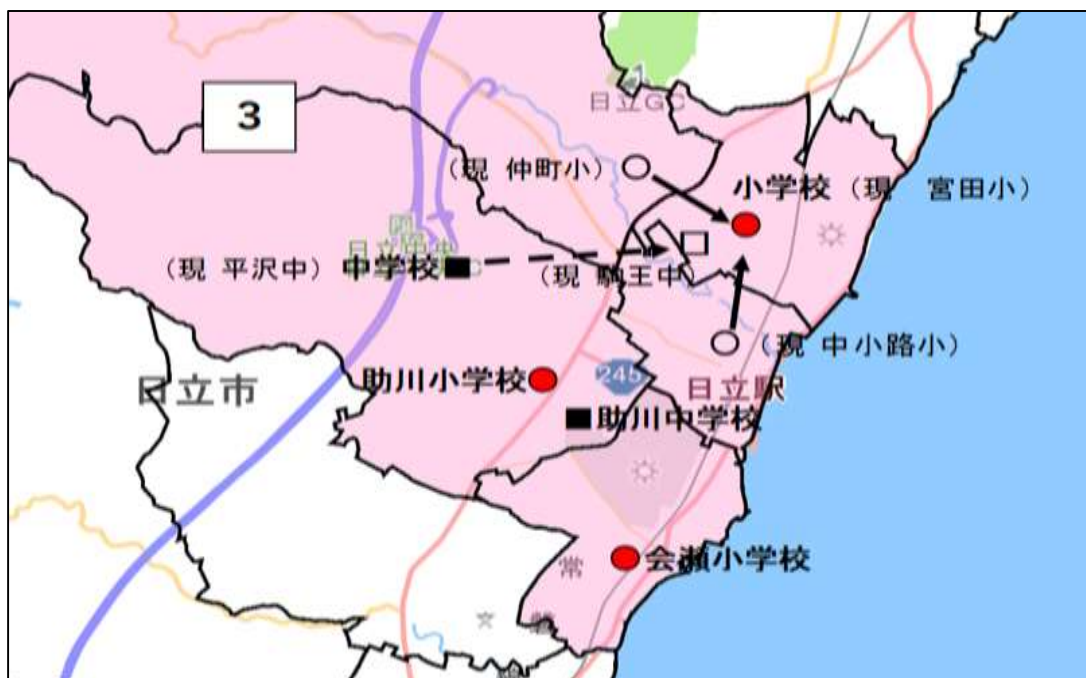
- ・駒王中、平沢中、助川中の学区の見直しを行っても目指す規模を維持することは難しいため、3校の統合により学校規模を確保し、分散進学を解消することが望ましい。
- ・統合校の位置は、通学距離や円滑な小中一貫教育の進め方などを考慮して、エリアの中心であり、学習や部活動に活用可能な施設が隣接する平沢中とすることが望ましい。
- ・3校の統合に先立ち、駒王中と平沢中を統合し、平沢中の位置に新校舎を建設するまでの間、統合校を駒王中に置く。
- ・なお、助川中は、生徒数の推移を見ながら、統合の時期を検討する。

ウ 再編スケジュール

校種	学校名	第1期 (2021～2025)	第2期 (2026～2030)	第3期～ (2031～)
小学校	宮田小			
	仲町小	●-----▶	(※)	
	中小路小			
	助川小			
	会瀬小	経過観察	▶-----▶	・統合検討
中学校	駒王中	●-----▶		
	平沢中			
	助川中	経過観察	▶-----▶	●-----▶

※ ●-----▶ 凡例 (23 ページ参照)

エ 第2期終了後の配置案



(4) 多賀北エリア（成沢小、諏訪小、油縄子小、大久保小／多賀中、大久保中）

ア 小・中学校の現状

(ア) 小学校

（児童数及び学級数の実績（5/1）推計） （ ）の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
成沢小	230人（7）	119人（6）
諏訪小	277人（11）	143人（6）
油縄子小	192人（7）	99人（6）
大久保小	481人（17）	248人（12）
児童数計	1,180人	609人

- ・油縄子小は大久保小、河原子小及び成沢小から、諏訪小は大久保小及び成沢小から分離し開校した経緯がある。
- ・山側団地の少子高齢化が特に顕著で、児童数の減少に影響している。
- ・狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていたが、近年は、少子化の影響により、各校が小規模化。

(イ) 中学校

（生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計） （ ）の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
多賀中	335人（10）	173人（6）
大久保中	497人（15）	257人（9）
生徒数計	832人	430人

- ・大久保中は、多賀中から分離し開校した経緯がある。
- ・将来的には両校とも小規模化が進行する見込み。
- ・多賀中と油縄子小は、市内で唯一、同一敷地内に隣接している学校。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・成沢小、諏訪小及び油縄子小は互いに距離が近く、それぞれに児童数が少なくなる見込みのため、学区の見直しを行っても全学年各1学級を回避することは難しい。
- ・3校を統合することを視野に入れ、まずは円滑な小中連携を考慮の上、成沢小と油縄子小を統合し、統合校の位置は油縄子小が望ましい。なお、統合の時期は、おおむね第3期以降とする。
- ・諏訪小は、今後の児童数の推移を見ながら、統合の時期を検討する。

(イ) 中学校

- ・多賀中と大久保中の通学区域の見直しを行っても、両校とも目指す学校規模の維持は難しいため、統合により、学校規模の確保と分散進学を解消することが

望ましい。なお、統合の時期は、おおむね第3期以降とする。

- ・エリアのほぼ中央に位置し円滑な小中連携がとりやすいこと、広い校地が確保できることから、統合校の位置は多賀中とし、施設一体型の小中一貫校（第3期の始めは成沢小、油縄子小、多賀中、大久保中）の整備を検討する。

ウ 再編スケジュール

校種	学校名	第1期 (2021~2025)	第2期 (2026~2030)	第3期~ (2031~)
小学校	大久保小			
	諏訪小	経過観察	→	・統合検討
	成沢小			(小中一貫校)
	油縄子小			
中学校	多賀中			●-----→ (※)
	大久保中			

※ ●-----→ 凡例 (23 ページ参照)

エ 第2期終了後の配置案



(5) 多賀南エリア（河原子小、塙山小、大沼小、金沢小、水木小／河原子中、台原中、泉丘中）

ア 小・中学校の現状

(ア) 小学校

(児童数及び学級数の実績 (5/1) と推計) () の数字は学級数

学校名	令和2年(2020年)の実績	令和22年(2040年)の推計
河原子小	197人 (7)	102人 (6)
塙山小	280人 (11)	145人 (6)
大沼小	515人 (17)	266人 (12)
金沢小	246人 (9)	127人 (6)
水木小	376人 (13)	194人 (6)
児童数計	1,614人	834人

- ・大沼小は大久保小から、金沢小は大久保小及び大沼小から、塙山小は金沢小及び大久保小から分離し開校した経緯がある。
- ・7つのエリアの中で最も児童数、学校数が多く、狭い範囲の中に多くの学校があっても適度な規模を維持できていた。
- ・山側団地の少子高齢化が児童数の減少に影響し、団地の児童が通学する学校は小規模化。
- ・半数の学校で1学級の学年があり、将来的には、大沼小を除く学校で全学年が各1学級となる見込み。
- ・学区が複雑に入り組み、分散進学が多い。
- ・河原子小学区は、学区の範囲が狭く、小規模化の一因。

(イ) 中学校

(生徒数及び学級数の実績 (5/1) と推計) () の数字は学級数

学校名	令和2年(2020年)の実績	令和22年(2040年)の推計
河原子中	159人 (6)	82人 (3)
台原中	183人 (6)	95人 (3)
泉丘中	515人 (15)	266人 (9)
生徒数計	857人	443人

- ・泉丘中は多賀中から分離した大沼中（現在の大沼小の場所に小・中学校を設置）を前身とし、その後、泉丘中として現在地に開校。河原子中は多賀中から、台原中は泉丘中から分離し開校した経緯がある。
- ・河原子中と台原中の小規模化が進み、教員配置や部活動数に課題がある。
- ・小学校からの分散進学が複雑で、学校規模が偏る一因。
- ・河原子中は仮設校舎を使用しているため、早期の改善が必要。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・目指す学校規模を確保するため、2～3校に再編することが望ましい。
- ・通学距離、エリア内の配置バランス、円滑な小中連携などを考慮し、エリアの周辺部に小学校を配置することが望ましく、大沼小学区を南北に分け、北側の東金沢町と金沢町を河原子小、南側の東大沼町と大沼町を水木小とそれぞれ統合し、統合校の位置は河原子小、水木小とすることが望ましい。
- ・ただし、現在の河原子小はエリアの端に位置し、通学の利便性に課題があることから、中学校の統合による跡地を活用し、統合後の河原子小を現在の河原子

中の位置に移転する。

- ・塙山小及び金沢小は、少子高齢化が進む山側団地にあり、児童数の減少が見込まれる。通学の安全性なども考慮しながら再編のあり方を検討する。

(イ) 中学校

- ・河原子中、台原中、泉丘中の通学区域の見直しによる学校規模の確保は難しく、また、通学区域の見直しは、分散進学を更に複雑にする可能性がある。
- ・将来的には中学校1校分程度の生徒数となることを見込まれるため、3校を統合して分散進学を解消する。また、通学距離、円滑な小中一貫教育の進め方などを考慮して、統合校の位置は、エリアの中心となる大沼小の校地を活用することが望ましい。
- ・3校の統合に先立ち、河原子中と泉丘中を統合し、統合校の位置は、エリアの中心部である大沼小の校地を活用することが望ましい。
- ・ただし、台原中は山側団地内にあり、塙山小や金沢小の児童が通学していることから、両小学校の児童数の推移を見ながら、統合の時期を検討することが望ましい。

ウ 再編スケジュール

校種	学校名	第1期 (2021~2025)	第2期 (2026~2030)	第3期~ (2031~)
小学校	河原子小	① ●----->	③ ・移転 (※)	
	大沼小	① ●----->		
	水木小			
	塙山小	経過観察	→	・統合検討
	金沢小	経過観察	→	・統合検討
中学校	河原子中		② ●----->	
	泉丘中			
	台原中			●----->

※ ●-----> 凡例 (23 ページ参照)

上表の①~③は再編の順序を示し、以下の順で進める。

①大沼小の分割、小学校の統合 → ②中学校の統合 → ③河原子小の移転 (河原子中跡)

エ 第2期終了後の配置案



(6) 南部エリア（大みか小、久慈小、坂本小、東小沢小／久慈中、坂本中）

ア 小・中学校の現状

(ア) 小学校

(児童数及び学級数の実績（5/1）と推計) ()の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
大みか小	231人（9）	119人（6）
久慈小	271人（10）	140人（6）
坂本小	360人（12）	186人（6）
東小沢小	21人（3）	11人（3）
児童数計	883人	456人

- ・東小沢小の複式学級の解消は見込めない。
- ・東小沢小の校地の全部が津波及び久慈川氾濫の浸水想定区域に含まれる。
- ・将来的には、エリア内の全ての小学校が、目指す学校規模を下回る見込み。

(イ) 中学校

(生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計) ()の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	令和22年（2040年）の推計
久慈中	260人（8）	134人（6）
坂本中	110人（3）	57人（3）
生徒数計	370人	191人

- ・両校とも目指す学校規模を下回っており、教員配置や部活動数などに課題がある。
- ・久慈中と坂本中を合わせても、目指す学校規模を確保できない見込み。
- ・坂本中の校舎は仮設校舎を使用しているため、早期の改善が必要。

イ 再編の考え方

(ア) 小学校

- ・複式学級の解消に優先的に取り組む。
- ・ただし、通学区域の見直しによる東小沢小の複式学級の解消は見込めないことから、通学距離や配置バランスなどを考慮し、東小沢小学区を東西に分け、東側の留町を久慈小、西側の神田町、下土木内町、大和田町を坂本小とそれぞれ統合し、統合校の位置は久慈小、坂本小とすることが望ましい。
- ・また、大みか小は、児童数の推移を見ながら、第1期統合校（東小沢小と久慈小）との統合を検討する。

(イ) 中学校

- ・久慈中と坂本中の通学区域の見直しを行っても、両校とも目指す学校規模の確保は難しいため、統合により、学校規模の確保と分散進学を解消することが望ましい。
- ・統合校の位置は、エリアの中心部である久慈中とすることが望ましい。
- ・多賀南エリアの再編により、現在の大沼小の場所に中学校の設置を計画していることから、市内全体の児童生徒数のバランスや通学距離を考慮して、大みか小の進学先を現在の泉丘中から久慈中に変更することが望ましい。

ウ 再編スケジュール

校種	学校名	第1期 (2021～2025)	第2期 (2026～2030)	第3期～ (2031～)
小学校	大みか小	経過観察	→	・統合検討
	久慈小	●-----→ (※)		
	東小沢小			
	坂本小	●-----→		
中学校	久慈中		●-----→	
	坂本中			

※ ●-----→ 凡例 (23 ページ参照)

エ 第2期終了後の配置案



(7) 中里エリア（中里小／中里中）

ア 小・中学校の現状

児童生徒数及び学級数の実績（5/1）と推計（ ）の数字は学級数

学校名	令和2年（2020年）の実績	学校名	令和2年（2020年）の実績
中里小	26人（3）	中里中	19人（3）

- ・他のエリアの小・中学校と離れて立地しており、徒歩や自転車で通学できる範囲内に統合を検討できる学校がない。
- ・平成25年度から小規模特認校として市内全域から通学できるようにし、多様な学習環境を提供している。
- ・地域の特性を生かした特色ある小中一貫教育を実践している。

イ 再編の考え方

- ・多様な学習環境を提供しながら児童生徒の教育ニーズに応えられるよう小規模特認校制度を継続する。
- ・中学校の校舎は耐震性に課題があり、義務教育学校への移行を視野に入れた施設一体型小中一貫校として、中里中に整備する。

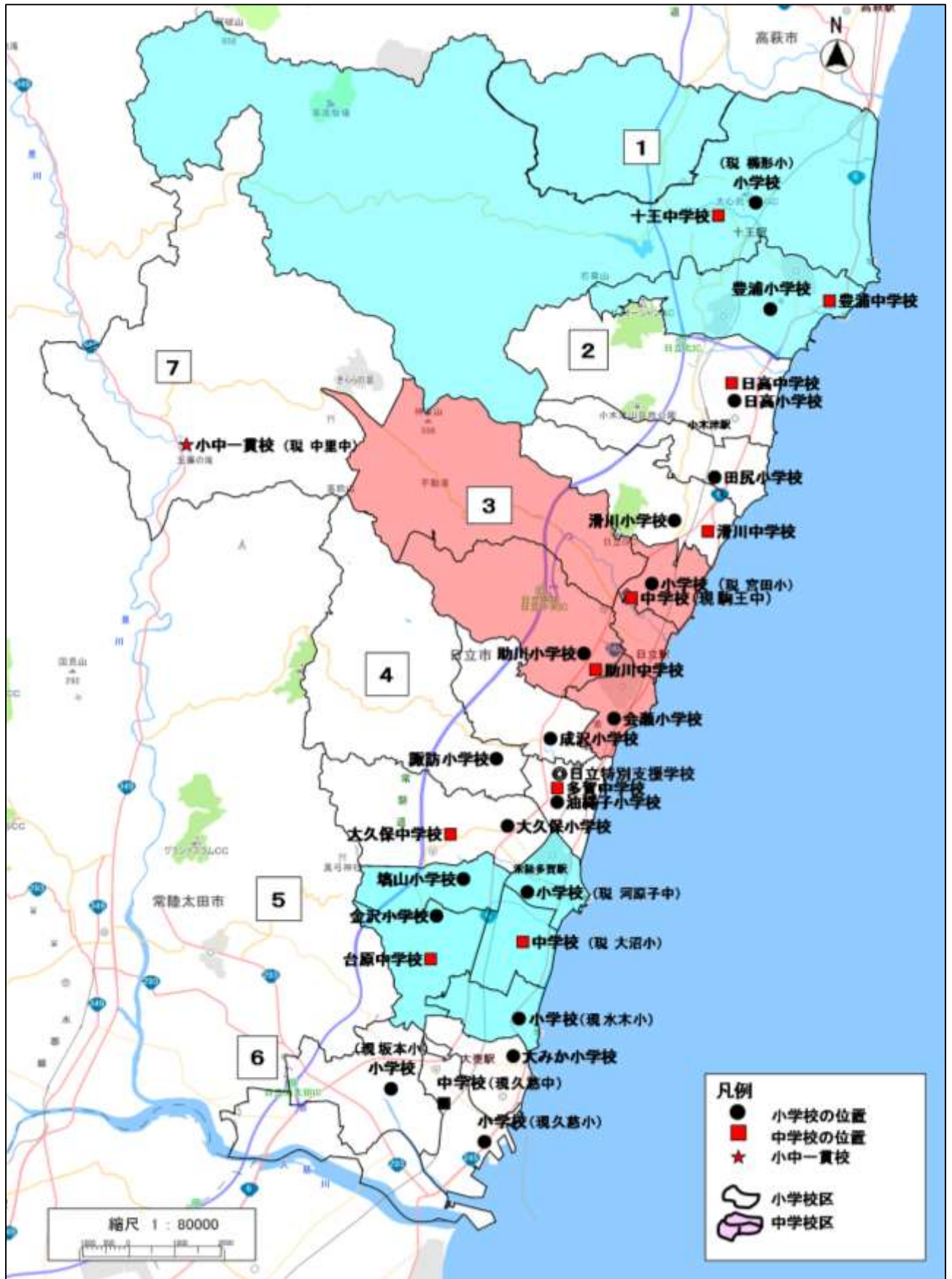
ウ 再編スケジュール

学校名	第1期 (2121～2025)	第2期 (2026～2030)
中里小	・統合 (小中一貫校)	
中里中		

エ 第2期終了後の配置案



4 全体の配置案（第2期終了後の学校の位置）



5 再編の進め方

再編計画策定後は、次の手順で再編を進めます。

